

# 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

## 災害復興委員会

### 2018年度 活動報告書

#### Feature

「平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議」での  
板書・見える化支援  
支援者同士が集い合い、分かち合い、活動を進めました! ————— 2

「災害支援×ファシリテーション」の社会的価値と可能性 ————— 3

地元で情報共有会議を支援して ————— 3

「支援のリレー」熊本から広島へ ————— 4

FAJ災害復興委員会の活動 ～これまでと最近 ————— 4

ファシリテーションにできることは、まだまだたくさんある  
～「板書練習会」を全国各地で開催 ————— 4

#### Topics

三者連携を目指す内閣府の研修で感じたファシリテーターの必要性  
～災害時における行政・NPO・ボランティア等との  
連携・協働に向けた研修会 ————— 6

防災減災に向けて、平時の活動を支援する  
～国土強靱化ワークショップ「レジリエンス×コミュニティ」  
避難を支え合うコミュニティづくり ————— 6

防災・減災とファシリテーション  
～静岡県内外の災害ボランティアによる  
救援活動のための図上訓練 ————— 7

中央共同募金会  
「ボラサポ・豪雨災害（平成30年7月豪雨災害ボランティア  
・NPO活動サポート募金）」助成を受けました ————— 7

2018年度活動一覧 ————— 8

# 「平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議」 での板書・見える化支援 支援者同士が集い合い、分かち合い、 活動を進めました！



2018年6月28日から7月8日にかけて、台風7号と梅雨前線の影響による集中豪雨が西日本を中心とする広い範囲に災害をもたらしました。発災直後、日本ファシリテーション協会（以下、FAJ）ファシリテーションサポート委員会災害復興支援グループ（※）は、ひろしまNPOセンターから「平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議（以下、ネットワーク会議）での板書支援をしてほしい」との要請を受けました。ネットワーク会議とは、被災地のボランティアセンターや避難所、県内外の支援団体や関係機関が集まって各地の情報や自らの活動を報告し合い、意見交換を行う場で、長期間に渡り継続して開催されるもの。ひろしまNPOセンターはその主催者です。会議の進行は主催者が行いますが、出席者の発言を模造紙に書く役割を中心に会議支援を頼みたいとのことでした。

災害発生後のネットワーク会議は、その場で互いに初めて会う団体も多く、各々のバックグラウンドや活動内容も異なります。板書による「見える化」を通じて、今何が議論のポイントなのか、リアルタイムで視覚的に共有できるため、参加者同士が互いを理解して課題解決に向けた話し合いができるようになると、その有効性が認知されています。

こうしたFAJの「板書支援」は2011年の東日本大震災に始まり、2015年の関東・東北豪雨や2017年の九州北部豪雨

など、過去にも実績があります。災害復興支援の経験が長いメンバーもいれば、今回はじめて支援に参加するメンバーもいました。今回は会員が多くなる広島市とその周辺が対象地域ということもあり、板書支援に関われる候補者を増やそうと「板書練習会」を広島市で実施し人材育成をしての支援でした。

毎回の支援の主な流れは、まず、ネットワーク会議の事務局である「ひろしまNPOセンター」が日程を決定。その後、FAJに連絡。そしてFAJのコーディネーターが、中心となる板書担当者を決定。その後、支援活動への参加を希望する約30名の会員が登録するメーリングリストで活動者を募集。毎回2～5名程度のチームメンバーで支援を行いました。会議前には、打ち合わせと役割分担、会場設営を実施。前回のネットワーク会議の記録を見ながら情報収集し、出てくる単語、地名を確認しました。会議終了後は、会場の片付けとふりかえり。次回に伝えることや共有しておくことを確認しました。そして、2019年3月末には、ひろしまNPOセンターとFAJとで支援活動のふりかえりを実施。良かったことや今後に向けてのアイデアを出し合いました。

今、被災地は新たなフェーズに入っています。これからも被災地に寄り添いながらFAJができることを模索していきます。（FAJ災害復興委員会委員長、遠藤智栄）

## 「災害支援×ファシリテーション」の社会的価値と可能性

特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター  
事務局長 松原 裕樹

平成30年7月豪雨では、15,176世帯が被災し、19市町22カ所の災害ボランティアセンターと702カ所の避難所が開所するなど、広島が初めて経験した広域災害でした。

ひろしまNPOセンターは、広島県の間接支援組織として、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)と日本ファシリテーション協会(以下、FAJ)のご協力のもと、「平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議」を開催してきました。初回

## 地元で情報共有会議を支援して

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会(FAJ)  
久澄 園子

発災から1週間後の週末、平成30年7月豪雨災害について話し合うFAJ中国支部の対話の会に参加しました。その流れで急ぎ「平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議」の第2回の板書支援をサブで担当することになりました。ファシリテーションを学んで6年、仕事でも板書は活用していましたが、災害支援に関連する場を経験するのは初めてでした。耳慣れない専門用語や支援団体名などに戸惑い、何もできない自分に落ち込みました。

でも、「4年前の土砂災害の時にはできなかったファシリテーションを学んだ自分だからこそできることを今回はしたい!」という思いも私の中にはありました。そこでFAJ災害復興支援グループ主催の板書練習会(※本報告書4頁参照)に参加しました。本当の実践練習で苦戦しましたが、熱い想いであふれる場でした。

その後、練習会に参加したメンバーでネットワーク会議を支援

(7/11)から第22回(2/25)までに、のべ422団体・523名に参加いただき、支援活動に関わる団体間の垣根をこえた関係構築や情報共有、連携促進を行うことができました。

正直なところ、会議運営に必要な人手や板書のサポートなど、根本的な部分で助けていただいたのは言うまでもありませんが、緊急時の災害対応において、「これまでの経験をつなぐこと」「支援者の想いや行動を課題解決につむぐこと」「被災者のために様々なステークホルダーの協働をおこなすこと」を共に生み出すことができましたと感じております。

これからも、各地の復興と次なる備えに向けて、そんなファシリテーションを共に担っていければ幸いです。多大なご支援への感謝と合わせて、今後ともよろしく願い申し上げます。

するようになりましたが、最初はサポートスタッフとして、経験のある板書担当者の動きを見て学びました。メインで板書ができるようになったころには各団体の人の顔も覚え、発言内容の予測もある程度つくようになっていました。板書をしていると、参加者の皆さんの視線が書いたものに集まるのを感じます。書かれている字を見て「自分の言ったことがみんなに伝わっている」と安心して話せたり、「今この話をしている」という共通認識が持てたり、「そういえば〇〇だよ」と考えが広がることができたり…。そんなことに活かしていただいているのではないかと実感しています。これからも皆さんのお役に立てるよう関わってゆきたいです。(本人談)



ネットワーク会議で板書を担当する久澄さん(中央奥)



## 「支援のリレー」熊本から広島へ

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 (FAJ)  
災害復興支援グループ 鈴木 まり子

平成30年7月豪雨で広島県呉市に支援物資を届けに行った時、偶然再会した静岡県危機情報課の杉山さんから「坂町が気になる。嘉島町のように日本ファシリテーション協会(以下、FAJ)が支援に入れないか」と相談を受けました。熊本県上益城郡嘉島町は、熊本地震のとき静岡県が支援に入りました。FAJも避難所の自主運営に向けての話し合いの支援から入り、現在も地域支え合いセンター運営会議をお手伝いしている町です。広島県安芸郡坂町は平成30年7月豪雨で死者行方不明者を出すなどの被害を受けていました。FAJは坂町とのご縁がありませんでしたが、杉山さんの投げかけを受けて嘉島町に相談し、嘉島町長から坂町町長へつないでいただき支援に入ることができました。

嘉島町の体験を参考にと嘉島町役場の避難所・地域支え合いセンター担当の町民課、仮設住宅担当の農政課等4名が坂町まで駆けつけて坂町のみなさんへの勉強会と担当別話し合いを開催しました。嘉島町役場の

方から「復興に向けての情報共有会議の重要性」が話され、その後の情報共有会議開催につながりました。次に坂町役場のみなさんも嘉島町を訪問し、実際に地域支え合いセンターや仮設住宅を見て具体的なイメージを持つことができました。その後も、坂町役場は必要に応じて嘉島町役場に相談に乗ってもらっているそうです。FAJは当日までのコーディネートと当日の話し合いの進行・板書を支援しました。自治体(静岡県)⇒NPO (FAJ)⇒自治体(嘉島町)⇒自治体(坂町)と、被災地と被災地をつなぐ支援のリレーが実現しました。これも広義のファシリテーションではと思います。現在も坂町では地域支え合いセンター、役場、社協、NPOの会議が開催されており、引き続きFAJも会議の進行・板書のお手伝いをしています。住民主体の復興に向けて息の長い支援を目指します。



嘉島町役場職員の皆さんが坂町に赴いての勉強会の様子(上)と坂町役場の皆さんが嘉島町を視察した様子(左)

## FAJ災害復興委員会の活動 ～これまでと最近

FAJでは、東日本大震災をきっかけに災害復興支援対応部門を設け、地域コミュニティの再構築・住民主体の復興支援と支援機関同士のネットワーク強化を大きな柱に活動を進めてきました。活動の概要としては、大きく4つに分かれています(下記参照)、これらの活動をテーマと支援対象に整理しました。現在(2019年4月)は、9名の災害復興委員会のメンバーが中心となり、会員の参画を得ながら活動しています。

2019年4月からは全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)に入会し、会員としての活動も実施します。

### 〈活動の概要〉

1. 被災地で活動する支援団体の支援
2. 会議のファシリテーション支援
3. ワークショップのファシリテーション支援
4. 災害復興に関わるファシリテーターの育成



## ファシリテーションにできることは、まだまだたくさんある ～「板書練習会」を全国各地で開催

平成30年7月の豪雨災害でFAJは、広島県で継続的に持たれた情報共有会議の「板書」を担当しました。情報共有会議は、九州北部豪雨、北海道胆振東部地震などでも開催されており、地元や各地から集まった支援団体同士が各現場の情報を交換したり、地元行政や社会福祉協議会などと連携する場となっています。そして、その中で板書は、会議の記録としてはもちろん、発言を“見える化”することで論点が共有されたり、話の流れが整理しやすくなるなど、会議を促進する点において貢献できたのではないかと考えています。

ただ、この情報共有会議での板書は、災害時特有の用語や個別の地名が頻繁に使われる、話の進行速度が

速いなど、初めて現場に入る人にとっては戸惑いや不安を持つことが否めません。そこで板書による支援であらたに現場に入ろうとする人がスムーズに現場に入ることができるように始めたのが、7月22日の広島以降、全国各地で行った「板書練習会」でした。広島以外に熊本、福岡、和歌山、東京、札幌などで実施しています。練習会では、FAJ災害復興支援グループのメンバー



2018年10月、東京での板書練習会の様子

が模擬で情報共有会議を行い、参加者は板書担当になった想定で模造紙に会議の内容を書き出します。参加団体の自己紹介や、各現場からの報告で「泥かきをするための大型重機が依然として不足しているんです…」といった災害現場の課題を即座に書けるようにします。社会福祉協議会の略称である「社協」も、耳で聞いただけでは、「写経」や「社共」など一瞬迷うものです。

災害復興における情報共有会議の重要性、そこでの板書をはじめとしたファシリテーションの効果がFAJ内はもちろん、いどこで大災害が起きるかわからないこれからの日本でもっと認知されることを願っています。(FAJ災害復興委員会、尾上昌毅)

## FAJの被災地・復興の支援や参画

テーマ	支援対象例	復旧・復興フェーズ					平時
		発災/ 直後	避難所	仮設住宅	災害公営 住宅	復興まち づくり	
情報共有会議 支援	常総市水害対応NPO連絡会議、九州北部豪雨支援者共有会議、H30年7月豪雨ひろしまネットワーク会議	●	●				
支援団体の 連携支援	JCN、石巻NPO連携会議、広域避難者支援MTG	●	●	●	●	●	
行政内連携会議 支援	熊本県嘉島町、広島県坂町		●	●	●		
民間・行政など 連携支援	広島県坂町、やまがた避難者支援協働ネットワーク、南相馬市小高区、内閣府		●	●	●		
住民・地域団体 支援	スクラム釜石、ひょっこりひょうたん塾(大槌町)、南相馬ダイアログ、騎馬武者ロックフェス実行委員会		●	●	●	●	
地域支え合い センター支援	熊本県嘉島町、広島県坂町			●	●		
ファシリテーター 養成・育成	ファシリテーター養成PJ、NPO法人あさがお、東日本大震災いわて子ども支援センター、南相馬市、嘉島町		●	●	●	●	●
防災・減災WS など	内閣府(国土強靱化ワークショップ、災害時における行政・NPO・ボランティア等との協働に向けた研修会)						●

### 三者連携を目指す内閣府の研修で感じたファシリテーターの必要性 ～災害時における行政・NPO・ボランティア等との連携・協働に向けた研修会

内閣府が日本各地で開催する「災害時における行政・NPO・ボランティア等との連携・協働に向けた研修会」の中で実施されるワークショップを2018年11月より、日本ファシリテーション協会(FAJ)として事前準備や振り返りも踏まえて、サポー

トしてきました。行政、社会福祉協議会、NPO等で毎回100名を超える方が参加した研修会でした。災害の現場では、緊急かつ多様な支援が求められ、連携・協働は欠かせないものになってきていま

すが、組織の事情からうまく機能しないこ

ともあると感じています。  
連携・協働を促すためには、災害時における課題等に対して、どれだけ当事者意識を持ち、お互いに役割を担えるのか、またどうすれば関係者間のコーディネーションができるのかというこ

とが大切になると考えています。そのためには、意見や知恵を引き出し、団体同士のつながりを促すファシリテーションは非常に相性がいいと思っていますし、今後ますます現場に必要なスキルと感じています。一方で、災害が起きた際に、場を作り、団体同士をつなぐ機能を担うファシリテーター人材が不足しているという課題があります。私たちFAJでは災害が発生すると現場の話し合いのサポートに出向きますが、災害が起きたときには地域でファシリテーターを担える人材をいかに生み出していくのかということも視野にいて平時から活動できればと思っています。  
(FAJ災害復興委員会、杉村郁雄)



### 防災減災に向けて、平時の活動を支援する

#### ～国土強靱化ワークショップ「レジリエンス×コミュニティ」避難を支え合うコミュニティづくり

平成30年11月3日に実施された内閣府が主催する国土強靱化ワークショップ～「レジリエンス×コミュニティ」避難を支え合うコミュニティづくり～では、話題提供者(鈴木まり子)と避難所運営ゲーム(HUG)の進行ファシリテーターとして、メンバー4名と会員3名が参加しました。このゲームは、静岡県西部地域防災局(現・西部危機管理局)の職員が2007年に発案したもので、カードを使って避難所に人が押し寄せる様子を体験し、避難所の運営をシミュレーションします。ゲームとはいえ避難者のイメージを膨らませながら、チーム内

で判断を繰り返していくので、意見を出し合える場づくりが必要になります。

今回の開催に備え、事前に主催者とプログラムについての打ち合わせを重ね、話題提供ではその後のワークで避難所運営がイメージしやすいように工夫をし、各テーブルにもファシリテーターを入れる

ことで、ワークと振り返りに参加者全員が意見を出し合えるように工夫しました。

防災や減災のための平時の取り組みは、各地で開催されています。訓練の機会を使って、災害時の話し合いを支える人も養成していきたいと思っています。  
(FAJ災害復興委員会、浦山絵里)





## 防災・減災とファシリテーション

### ～静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

静岡県ボランティア協会が主催する「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」（助成：日本財団）は2019年2月23日（土）と24日（日）の2日間開催されました。FAJ災害復興支援グループでは、2013年から毎年このイベントに参加しており、本年も2名のメンバーがグループファシリテーターとして参加しました。

通称「図上訓練」と呼ばれる本イベントは今年で14回目の開催となり、静岡県内の防災関係の参加者約200名に加

えて、北は北海道から南は九州まで県外から約100名が参加する大掛かりな訓練です。この訓練は災害時の対応マニュアル等を確認するロールプレイ型の訓練ではなく、ワークショップ形式で参加者が共に考え、それぞれのアクションに繋げていくことを目的としています。行政の防災担当者や社会福祉協議会をはじめ災害ボランティアセンターやNPOの方まで、様々な立場の方々と意見を交換することで多様な視点が得られることに加えて、県外からの参加者が混ざること

多様性も学べるのが特徴です。

災害時ほど多職種間の連携と情報の共有が問われる時はありません。また、それはいつ起こるか分からないだけに、普段から顔の見える関係性の構築がカギとなります。東日本大震災以降、被災地の復興におけるファシリテーターの役割が注目されていますが、災害発生時または地域防災における平時の活動にこそファシリテーターの存在が求められているのかもしれない。主催者によれば、過去13回開催してきた図上訓練でグループファシリテーターが設置されたのは今回が初めてのことでした。災害訓練の中でファシリテーターの存在が認知されてきているということは、ファシリテーションの活用が広がってきているとも感じます。（FAJ災害復興委員会、平山猛）



### 中央共同募金会「ボラサポ・豪雨災害(平成30年7月豪雨災害ボランティア・NPO活動サポート募金)」助成を受けました

今回の豪雨災害では支援が中長期化することが早期に想定されたため、継続的な支援体制をつくるために助成金を申請することにしました。「被災地支援活動に取り組むNPO等のための情報共有・協働促進サポート活動」として本助成に応募し、122万円の助成決定を受けることができました。

具体的には①西日本豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議の情報共有・協働促進②広島県安芸郡坂町地域支え合いセンター運営会議の情報共有・協働促進の2活動に取り組みました。

なお、本活動を推進するにあたっては、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター、特定非営利活動法人



全国災害ボランティア支援団体ネットワーク、被災地NGO協働センターに協力いただきました。（FAJ災害復興委員会、正田恵子）

## 2018年度 活動一覧

5月21日	嘉島町仮設等連携会議(熊本県嘉島町)	10月16日他	坂町支え合いセンター企画調整会議支援(広島県安芸郡 / 他3回)
5月28日他	嘉島町地域支え合いセンター運営会議(熊本県嘉島町 / 他3回)	10月21日	板書練習会(北海道札幌市)
6月3日	小高生活再建検討委員会支援(福島県南相馬市)	11月3日	国土強靱化ワークショップ(HUG)進行支援(東京都港区)
6月30日	ファシリテーター養成プロジェクトFANの実施	11月12日	嘉島町視察と相談会(熊本県嘉島町)
～7月1日	(宮城県仙台市)	11月30日	内閣府「災害時における三者連携・協働に向けた研修会」支援(岐阜県岐阜市)
7月15日他	平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議支援(広島県広島市など / 他17回)	12月17日	内閣府「災害時における三者連携・協働に向けた研修会」支援(宮城県宮崎市)
7月17日他	全国情報共有会議支援(東京都千代田区 / 他7回)	12月19日	坂町地域支え合いセンター運営説明会(広島県安芸郡)
7月22日	広島板書ボランティア養成練習会(広島県広島市)	12月21日	内閣府「災害時における三者連携・協働に向けた研修会」支援(山口県山口市)
8月4、5日	ファシリテーター養成プロジェクトFANの実施(宮城県仙台市)	1月30日	坂町地域支え合いセンターコア会議(広島県安芸郡)
8月12日他	板書ボランティア養成練習会(東京都港区 / 他1回)	2月11日	内閣府「災害時における三者連携・協働に向けた研修会」支援(千葉県千葉市)
8月29日	坂町役場ヒアリング(広島県安芸郡)	2月23、24日	静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練支援(静岡県静岡市)
9月1、2日	ファシリテーター養成プロジェクトFANの実施(宮城県仙台市)	2月27日	地域で「地域で支え合うための勉強会 ～豪雨災害被災地域の先例に学ぶ～」(広島県安芸郡)
9月13日他	北海道胆振東部地震情報共有会議支援(北海道勇払郡 / 他3回)	3月9日	内閣府「災害時における三者連携・協働に向けた研修会」支援(北海道札幌市)
9月13日	坂町役場とNPOの話し合いの支援(広島県安芸郡)	3月12日	坂町地域支え合いセンターコア会議(広島県安芸郡)
9月18日他	坂町一嘉島町役場の情報共有会進行支援(広島県安芸郡 / 他1回)		
10月1日	やまがた避難者支援協働ネットワーク意見交換会進行支援(山形県山形市)		

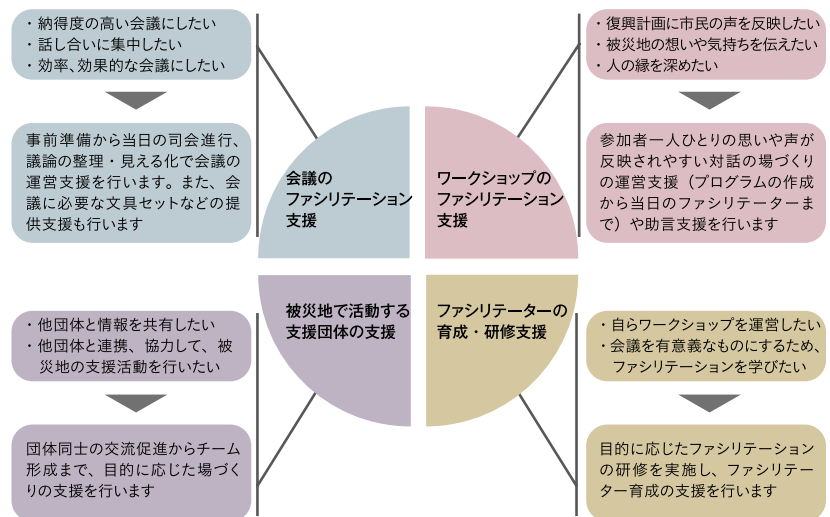
## 日本ファシリテーション協会と災害復興委員会

ファシリテーション(Facilitation)——、人と人、人とコトとの関わり方に働きかけ、集団による学習や問題解決、未来創造などの場においてプロセスと結果がよりよいものとなるよう支援・促進することを意味します。その役割を担うのがファシリテーターで、話し合いの場で参加と相互作用を促す進行役などがわかりやすい例です。

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会(FAJ: Facilitators Association of Japan)は、ファシリテーションの普及を通じて、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展を目指し2003年に法人として設立、2004年には内閣府より特定非営利活動法人(NPO)の認証をうけました。2019年3月現在、約1530名の会員が活躍する団体となっています。

災害復興委員会(※)は、2011年3月11日に東北・関東を襲った地震・津波・原発事故の複合大災害直後にFAJ内に設置され、以後、「地域コミュニティの再構築・住民主体の復興支援」、「支援機関同士のネットワーク強化」を柱に各地で活動しています。

※FAJ内での組織形態が変わり、2019年4月15日より「FAJ災害復興委員会」となりました。文中では実施時期により改組前の名称「復興支援グループ」を使用しています。



### 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会

#### 災害復興委員会 2018年度 活動報告書

2019年5月21日発行

編集 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 災害復興委員会

浅羽雄介、浦山絵里、遠藤智栄、遠藤紀子、尾上昌毅、杉村郁雄、鈴木まり子、疋田恵子、平山猛

発行 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目12番8号 www.faj.or.jp

お問い合わせ(Eメール) fukkou311@faj.or.jp